



第23号

「PMFを応援する会」会報

協奏

2021年12月6日

「コロナの時代に思うこと」

(公財) 札幌市芸術文化財団専務理事・
札幌コンサートホールKitara支配人

渡邊 多加志

PMFのメイン会場となっている札幌コンサートホールKitara支配人の渡邊です。

昨年からのコロナ禍により、音楽に限らず全ての芸術文化活動は、たいへん大きな打撃を受けました。特に、昨年は、PMFも初めて開催を取りやめましたし、Kitaraの事業も多くが中止や延期を余儀なくされました。また、入国許可の厳格化や14日間の待機などのため、海外からのアーティストの来日も難しい状況が続いています。

しかし、そうした困難な状況にありながらも、いや、むしろそうした状況だからこそ、人々を勇気づける芸術文化活動が求められていると思います。

クラシック・コンサートについては、大きな歓声を挙げないということで、昨年の秋から冬にかけて徐々に再開され始め、今年に入ってから、感染拡大のため入場者数を50%に制限することがあたりしなながらも、コンサートが開催されることが多くなってきているのは、とてもうれしいことです。

PMFも、今年は2年ぶりに開催され、前半のプログラムでは、アメリカを中心に活躍している若手指揮者の原田慶太楼さんが、素晴らしい指揮を見せるとともに、アメリカ仕込みの楽しいステージを披露して、会場を訪れた多くの方々に魅了しました。Kitaraの主催事業についても、一部事業の中止や延期はありますが、できる限り開催するように努めており、中には完売となった公演もあるなど、市民の皆さんが演奏会を待ち望んでいたということを改めて実感しております。



札幌コンサートホール
Kitaraエントランスにて

さて、私には、PMFでは忘れられない思い出があります。それは、2年前の令和元年7月のPMFプレミアムコンサートでマーラーの交響曲第8番（「千人の交響曲」とも呼ばれます）に合唱団の一員として参加したことです。巨匠エッシェンバッハ氏の指揮により、重厚なオルガンの響きとそれに続く壮大な合唱で幕を開ける第1部は、オケ・合唱ともに最高潮に盛り上がり締めてくられます。一転して静かに始まる第2部は、弱音の美しさと緊張感を求められ、囁くようなピアノでハーモニーを奏でる「神秘的合唱」から一気にフィナーレに向かい、華々しいオケと壮大な合唱、さらには荘厳なオルガンの響きを体を感じながら終曲となります。そして、指揮者がタクトを下すまでの間、演奏者と聴衆が一体となって作り出す感動的な空間を共有できたことをとても幸せに感じました。

PMFは、いつも素晴らしい指揮者、演奏者を招いていますので、来年も楽しみにしていますし、Kitaraでも多彩な主催事業を用意しておりますので、PMFの期間中はもちろん、札幌コンサートホールKitaraに何度も足を運んで、生で聴く会場ならではの感動を多くの方に味わっていただきたいと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

・ With コロナ ・

～ コロナ禍の中で見たこと感じたこと ・

いま PMFに寄せる思い ～

日本だけでなく世界中が新型コロナの猛威に晒され、
当たり前のことが当たり前でない現実に直面し、さまよう中で
自粛生活の日々をどう過ごされてきたのか？
小学生から80代までの皆さまの思いをここに広げます。

不透明なくらしのなか寄り添ってくれた芸術文化、
音楽とのふれあいが見えてきました・・・。

・ With コロナ ・

「With コロナ寄稿」

札幌交響楽団チェロ奏者 荒木 均

私が20代半ばで第1回PMFにアカデミー生として参加してから30年の歳月が流れ、今は50代半ばの白髪頭になりました。PMFの後は東京でフリー奏者を経て札幌に入団し今に至ります。職業として年間100本以上の演奏会に出演し毎日生徒たちにチェロを教え、そんな生活をずっと送ってきました。

さて、その当たり前に続いていた忙しい日常がコロナで突然中断しました。エンターテインメントの存続に危機感を覚えました。予定されていた演奏会が次々に中止になり、スケジュール帳が真っ黒から真っ白に変わりました。

日常に膨大な空き時間が生まれました。こんなことはチェロ奏者になって初めてです。練習しなければならぬ目前に迫った演奏会もありません。

久しぶりに、本当に何十年ぶりに自分の楽しみのためだけに(不安を他所に)毎日チェロを弾きました。昔練習した教則本や気の向くままに好きなコンチェルトやソナタを弾きました。

.....

PMFに参加した若い頃の音楽に純粋に向き合う気持ちを出しました。

今の若い音楽家志望の人たちはまさにこれからという時にコロナ禍に見舞われ本当に心細い日々を送っていることと思います。PMFのスタッフやPMFを支えておられる方々にはさぞご苦労が多いことと思います。私も出来ることはして、PMFを応援していこうと思います。

「友達と一緒にいい」

札幌市立福住小学校5年 櫛山 奈緒子

私は小学校のスクールバンドでクラリネットを担当しています。緊急事態宣言でバンドの練習が休みになったときは、すごくひまになりました。ほとんど毎日練習していたのがなくなったからです。家で個人練習もしていましたが、上達しなかったのでやる気が出ませんでした。早く学校で練習したいと思いまし

た。7月に練習が始まると、コンクールに向けた練習で今は大忙しになり、他のことを考えていられないほど疲れました。でも、コンクールで金賞をとれたし、やる気の出ない個人練習をするよりも、学校で友達と一緒に練習する方がいいなと思いました。

「思い出話、そして夢」

PMFを応援する会フェロー 渡邊 悟

今から20年ほど前、夢だったザルツブルグ音楽祭を訪ねた。すっかり魅了されてその後2回も訪ねた。

帰札後、PMFの故竹津宜男さんを訪ね、ザルツブルグでは「音楽祭」が観光資源として大きな役割を担っていることやPMFでも将来国内外からの観光客も期待できるのではないかなどを語り合った。

PMFは、今や世界三大教育音楽祭のひとつとして

数えられ、30年以上続けてきた関係者の努力も特筆に値する。

これからは、若い世代などの掘り起こしも必要だろう。夢かも知れないが、PMF開催時には大通公園でもウィーンフィルの楽員などが演奏し、市民や観光客らがくつろぎながら夏の札幌を楽しむ、そんな日が来ることを心待ちにしている。

「楽しみにしています、PMF」

北大大学院留学生 ラトナーヤカ・サンギータ

留学生が参加できるようなものが他の街にはあまりないので、PMFに留学生が参加できるのは、札幌のユニークなポイントだと思います。PMFはモーツァルトだけでなく、日本の作曲家や海外の演奏家などバラエティーに富んだコンサートがあるので、楽しみにしたいところが今年は開催されずに残念でした。

今年100周年を迎えるザルツブルグ音楽祭に参加してきました。チケット入場する前にワクチンの証明書か、薬局で買える当日の抗体テストの結果を示すアプリを見せる必要がありました。メディカルレベル

のマスク着用が必須だったので、館内で購入しました(2ユーロ)。

満席のGreat Hall of the Stifung Mozarteum (モーツァルテウム財団大ホール)では、本当に素晴らしい演奏を聴く経験をしました。

これからのPMFも同じように安心して留学生も道民もみんなと一緒に参加できようものになると良いと思います。

「コロナ禍の中で思ったこと」

浜辺と海をきれいにする会代表 弁護士 和田 壬三

当会の新会長の丹羽さんを会長に戴き40年以上続けてきた浜辺のゴミ拾い運動も、コロナ禍の中、2年間活動を中止せざるを得ず、代りに未来の地球環境をテーマとする小学生対象の作文コンクールを実施致しました。

音楽の世界でも演奏会が中止になる等残念となりましたが、お陰で私と音楽との関りについて考える機会を得ました。

私にとって音楽を楽しむ機会は室内の演奏会だけでなく、汽車の中、街頭、スポーツ観戦中、映画、各

種メディア、オーディオ器機、屋外の演奏会など、時間も朝、昼、晩、真夜中など、場所も時間も様々でした。

その中で最も印象深い音楽は、心に響く音楽だったと気付きました。素晴らしい音色の楽器や歌声にも感嘆しましたが、ネパールで深夜聞こえてきた仏教歌、テレビで聞いた赤道直下の音楽、深夜インドのシターの演奏会で聞いた音楽、シンガポールのレコード店で聞いた快いテンポの音楽など、今でも心の奥深く迄思い出として残っています。



「コロナ禍の中で見たこと感じたこと」

ヴァイオリニスト 小林 瑠衣

新型コロナウイルスが広がり、私たちも演奏活動の中止、延期が相次ぎ、レッスン活動を含む音楽活動に大きな制限がかかりました。

しかし、本番や演奏の機会は少なくなった反面、今までの活動ではできなかった事も沢山経験させてもらいました。そんな中、一番心に残っているのは日々支えてくださっているスタッフや仲間達と多くの話し合いができ

たことです。あらためて人と心を通わせることの大切さを感じると共に、コロナ禍にかかわらず大切なことは何も変わらない、ということにも気づけました。

そして今やれる事、やるべき事を考えた時、ぼんやりとしていたコロナ禍の前から思い描いていた自分の歩むべき道が明確になってきたように感じます。

「ポジティブに」

声楽家(バリトン) 下司 貴大

コロナ禍では、演奏家としての存在意義を自問自答し、自分の身体と心と向き合うことのできる大切な時間だったとポジティブに捉えることにしています。

久々となる本番では緊張しますが、主催者や聴きに来てくださる方に感謝し、たくさん充電したものをアウトプット出来ればと考えています。

新しい家族も増え、父親としても、音楽家としても魅力的な存在になれる様、精進していきたいです。



「PMFとの再会を楽しみにしています」

藤女子大学文学部文化総合学科1年 笹林 奈央

授業の一環で、高山秀毅さんから(注) PMF のお話をオンラインで聴く機会がありました。小学生の頃、ピクニックコンサートに何度か出かけました。当時は「音楽を聴く」というより「自然豊かな会場でまったりする」のが楽しいと思っていましたが、次第に「音楽の素晴らしさ」を感じられるようになりました。

また、PMFのことをよく知らず、有名人ばかりが演奏していると思っていましたが、今回の高山さんの授業で、

有名な音楽家が若手を指導し、コンサートはそのお披露目会だと聞き、何と素敵なお取り組みだろうと感じました。コロナ禍が落ち着いたら、またコンサートに出かけるなど、この素晴らしい活動が続くよう陰ながら応援していきたいと思っています。

(注) P7、「藤女子大学にてオンライン・オンデマンド授業」参照

「コロナ禍、PMFに寄せる思い。」

芸術の森 寺子屋「無料学習塾」代表 横山 憲治

「新型コロナウイルス」。全世界が2年以上にも及び苦しみに直面している。文化や芸術は“不要不急”なものとされがちだった。しかし、医療や介護などの“エッセンシャル”に加えて、「音楽」もアーティストや関係者らを中心にした地道な努力で、心に“不可欠”なものとして蘇りつつある。PMF 2021も途中で中止というアクシデントはあったものの、負けない。

私はPMF草創の拠点「札幌芸術の森」地域に住んでい

るが、住民たちはその国道を「Welcome Road」として3Kmの両側で絶やすことなく花壇運動を続けている。連合町内会を核として特製の「PMF歓迎旗」の並列を毎年高く掲げている。

PMFが「ファンや地域」の底辺拡大(底辺とは=底力・土台の意味)とがっちり手を結び、コロナに代わり哀歓豊かな人間の感情や、平和の絆を進化させたいと思うこの頃です。

2年ぶりの再開となったPMF2021は、様々な状況を想定し感染症対策にも取り組んだうえで実施し、多くの皆様に演奏をお楽しみいただいておりますが、新型コロナウイルスの感染の影響により、残念ながら、後半のプログラムを中止し、会期中で閉幕いたしました。応援していただいている皆様にご心配、ご迷惑をおかけしましたこととお詫びいたします。本年は、会期を全うすることは叶いませんでしたが、「未来につなぐ音楽祭PMF」として、コロナ禍のもとでも「若手音楽家の育成」というPMFの理念を堅持するため、オンラインを積極的に活用した音楽教育への新たな取り組みや、PMF修了生とのつながりを生かしたプログラムを実施するなど、教育音楽祭として今後の糧となる貴重な経験を得ることができたシーズンとなりました。



●PMFオーケストラJAPAN

2020年にオーディションを経て参加する予定だった国内在住の26名のアカデミー生と、国内で活躍するPMF修了生、さらには国内オーケストラのトップ奏者で特別編成されたPMFならではのネットワークを生かしたオーケストラを結成できました。活気に満ちた演奏でPMF2021のオープニングを飾ってくれました。



原田慶太楼(指揮)とアカデミー生

●PMFホストシティ・オーケストラ演奏会

1990年、第1回PMFに創設者バーンスタインとともに参加し、創生期の音楽祭を支えた大植英次がPMFホストシティ・オーケストラ演奏会に登場。バーンスタインがPMFオーケストラを指揮した特別な1曲「シューマン：交響曲第2番」を、現在11人のPMF修了生が所属している札幌交響楽団と演奏しました。



大植英次(指揮)と札幌交響楽団

●PMFアカデミー生と教授陣による オンライン・マスタークラス

PMF2021では、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響で、海外から教授陣・アカデミーを日本へ招聘することが難しく、札幌での直接の指導が困難な状況であったため、PMF史上初、オンラインでマスタークラスを行いました。その指導風景映像と指導後の演奏映像を、公式ウェブサイトで無料公開しております。ぜひ“音づくりの現場”をご覧ください！



●PMFクラシックLABO♪

1993年から実施してきた「PMF教育セミナー」をより充実させ、今年からスタートした音楽講座。「オーケストラのひみつ」と題した第1回となる今回は、指揮者の原田氏を中心に、オーケストラにまつわる秘密やトリビアを、お話や演奏を通じて深掘りしていくプログラム。笑顔に包まれるアットホームな催しとなりました。「第2回PMFクラシックLABO♪」は2022年春に開催予定です。ご期待ください！



◆PMF2022に向けて◆

世界中から厳しいオーディションで選ばれたPMFアカデミー生が、世界最高峰の教授陣から濃密な指導を受ける…創設時から続く国際教育音楽祭PMFならではの光景を絶やさぬことが、私たちの使命です。引き続き、新型コロナウイルスの感染状況を注視しながら、PMFを応援して下さる皆様に、安心して音楽を楽しんでいただけるよう、主催者として最善を尽くしてまいります。今後ご支援とご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。



2021年3月19日寄附金贈呈のためにPMF組織委員会を訪問いたしました。
上田文雄会長はじめ常務理事、事務局長に迎えられた私たちは寄附金20万円を無事にお渡しして参りました。

さらに感謝状を頂いた後に、PMF2021についての話を伺い当会の活動に思いを巡らせておりました。皆様からの貴い募金をお渡しできたことに安堵するとともにPMFの発展と継続のために活動を続ける思いが一層強まりました。今後ともご支援ご協力宜しくお願い申し上げます。

尚、2009年度からの寄附総額は6,025,000円になりました。心より感謝申し上げます。



2020年度事業報告 (2020年4月1日～2021年3月31日)

《活動状況》

主催事業：コロナ禍によるPMF2020中止よりすべて中止

総会：対面会合不可のため書面にて終了

- 定例役員会開催 全7回 (4～7月開催なし、9～12月会議室にて開催、1～3月リモート会議開催)
- 北大授業「PMFの響き」(オンライン授業6月25日より 学生に公開配信)
- OCとの懇談会 (8月27日PMF組織委員会に於いて PMF2020 中止経緯と今後の活動について報告を受ける)
- PMF組織委員会へ寄附金贈呈 (3月19日PMF組織委員会に於いて)
- 「協奏」22号発行 (11月30日)
- HP管理 内容更新

2020年度募金報告 (2020年4月1日～2021年3月31日)

募金ありがとうございました。今後とも宜しくお願い致します



■募金者 敬称略 五十音順 (2020年4月1日～2021年3月31日)

赤石 尚一	赤石 知恵子	東 修子	安孫子 建夫	阿部 千秋	雨貝 尚子	井浦 功雄	石塚 米子
伊藤 佐紀	今井 葉子	氏家 公子	大谷 慎一	大谷 洋子	岡部 文子	荻谷 忠男	荻谷 恭子
荻野 弘子	奥村 道子	葛西 庸子	加藤 史子	河内 和子	川本 悦子	北島 充	木村 清純
熊本 寛見	倉岡 修子	合田 由紀子	近藤 崇	近藤 光子	齊藤 克幸	齋藤 晋五	齋藤 美登里
坂本 慶子	佐藤 真理	佐藤 道子	塩澤 正樹	清水 貴子	鈴木 陽子	須田 和子	鷺見 洋子
杉本 猛	関 寛	大公 一郎	鷹野 正義	高橋 来	高橋 実規子	田熊 勉	竹津 秀磨
竹部 玉枝	田中 薫	谷口 哲雄	土屋 陽子	寺田 百合子	天日 彰子	天日 一光	徳永 純子
徳永 隆史	徳永 洋	中島 禮子	中野 敏仁	中村 和雄	中村 千賀子	西川 優	丹羽 祐而
仁衡 泰子	野上 まさ子	畠 謙二	花井 美恵子	馬場 彰子	平原 弘美	廣瀬 キミ子	福本 順子
藤森 亜矢子	藤原 夏樹	古川 善雄	星野 慶子	本間 ひとみ	牧原 和美	松川 早苗	松平 英明
松宮 従子	三谷 和央	村田 保弘	森 眞理子	森口 力	八木 幸三	山際 豊重	山城 範子
横山 憲治	吉田 ひろ子	吉田 幸弘	若月 富男	若月 公子	渡邊 悟	ほか匿名1名	

■募金額 (2020年4月1日～2021年3月31日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
募金額 451,500円	0	0	10,000	0	0	24,000	0	0	364,500	12,000	23,000	18,000
募金数 99件	0	0	1	0	0	3	0	0	82	2	6	5

2021年度事業展望 (2021年4月1日～2022年3月31日)

本年度事業としての計画はPMF2021も会期中で中止となり限られた展開となっています。

- PMFで会いましょう …… 1案：7月23日オープニング会場
2案：7月31日ピクニックコンサート会場
- カフェサロン …… 音楽都市札幌の未来+PMFと札幌の役割について市民サイドからの意見集約
パネルディスカッション、グループトーク、修了生演奏ほか
- フェローミーティング …… リモート開催も考慮
- 豆記者リモート会議 …… 若年者を取り組む事業
- 総会 …… 2021年5月11日 リモート会議によって開催、総会議案は何れも承認
- 北大「PMFの響き」 …… オンライン授業6月、対面授業7月
- 藤女子大講義 …… オンライン授業7月
- 協奏発行 …… 12月6日予定
- HP管理 …… 随時
- 役員会議 …… 毎月1回（状況によりリモートにて開催）

藤女子大学にてオンライン・オンデマンド授業

PMFを応援する会の広報活動 (2021年夏、PMF開催直前に実施)

監事：高山秀毅 (AIR-G'アナウンサー)

今年コロナ禍のため、藤女子大学文化総合学科にてオンライン・オンデマンド授業（動画配信、7月5日～19日）をおこないました。テーマは、「PMF NEXTを応援するために」。クラシック音楽の面白さ、音楽家バーンスタインがPMFを札幌に創設した経緯や国際教育音楽祭としての特徴・意義、また「PMFを応援する会」や「ハーモニー」など、PMFと関わるボランティア団体の活動について取り上げました。“ラジオDJ風”のトークとPC画面、事前アンケートの結果を読み上げながら、あっという間の90分超え授業となりました。

事前アンケートによると、動画視聴前にPMFについて知っていたという学生はほぼ20パーセントに過ぎませんでしたが、授業後の感想から、PMFの存在や意義、またボランティア活動についても理解が深まった様子がうかがえます。感想の一部を紹介します。

- 札幌にこんなに大きな音楽祭があることを初めて知り、クラシック音楽を少し身近に感じることが出来ました。
- 今までPMFの存在を全く知らなかったが、次の世代を担う人材の育成に力を入れたり、音楽を通じてたくさんの人とのつながりを持つことができるものだとなり、とても素敵な活動だなと思った。
- PMFはピクニックコンサートとキタラでのコンサートに一度ずつ行ったことがあるが、「ハーモニー」や「PMFを応援する会」というのは今回初めて聞いた。それらがボランティア活動や募金活動などを行っていることを知り、間接的に音楽に携わることができるということが非常に興味深かった。
- 自分もボランティア活動に参加したことはありましたが、ボランティアする側にも責任があり、よく言うただ働きとは全く意味合いが異なることも再確認できました。

藤女子大学文化総合学科では、学生の具体的なボランティア活動も応援しているという事なので、コロナ禍が終息した暁には、活動再開に必要なコラボレーションに努めたいと考えています。

音楽を愛し、且つPMFを応援して下さっている皆様、その後、如何お暮らしでいらっしゃいますでしょうか。

新型コロナ感染症という、とんでもない現象により地球上は大混乱状態となりました。ただ、それに対し人間は英知を結集し諸々の対応を施し、その成果あってか現段階は徐々に正常化の方向に進んでいるかのように感じられます。

さて、音楽も英知のエッセンスでありましょう。その音楽が、このコロナ禍の元での人間生活にどれほどの安らぎと希望を提供したことでありましょうか。長い長い自粛期間というトンネルを抜けると、光明と生きる喜びとを含有したメロディが待っていることと確信いたします。

近未来のユートピアを目差し地球社会は更に稼動すると思いますが、それに合わせPMFを応援する会も微力ながら活動を進めております。

今後も、次代を担う世界の若手音楽家の育成を目的とするPMFへ歩調を合わせながら進む所存でありますので、更なるご支援ご協力のことお願い申し上げます。



PMFを応援する会
会長 丹羽 祐而

募金ご協力に感謝申し上げます

このたび、募金用紙、払込取扱票が青色に変わりました！ 送信料が送金人の負担に変わります

郵便払込を利用され募金を送ってくださる方が多い中、送金人に負担がかかる変更は大変心苦しいことでしたが、送信料が送金人払いとなる用紙に変更することになりました。ご理解くださいますようお願い申し上げます。いままで当会で負担して参りましたが皆さまにご負担をおかけする事態、ご容赦ください。

窓口扱い：払込金額5万円未満=203円
払込金額5万円以上=417円

ATM扱い：払込金額5万円未満=152円
払込金額5万円以上=366円

お悔やみ

当会フェローメンバーとして物心両面で支えてくださいました、定山溪温泉「ぬくもりの宿ふる川」会長、古川善雄様が去る5月10日ご逝去されました。PMFを愛し、いつもエールを送っていただきました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

【編集後記】

ドミノ倒しのように常識は変化し、先の見えない不安な世界に迷い込んでいる。文明の進化が幸福と比例するものでないと感じたし、地球に住む不思議さや恩恵にも無頓着だったと気づかされた。感染症や天変地異を生き抜いてきた先祖のように、みなさんはコロナ禍とどう向き合っているのか、知りたいと思った……。そんな素朴な疑問からP2-4の特集企画が生まれた。「こんな時もあったよね」と笑顔で話せる日が近いように。(あ)

「協奏」は皆さまの募金で作られています。 ご支援に感謝申し上げます。

【発行】

PMFを応援する会

〒064-0913 札幌市中央区南13条西5丁目1-1-203 近藤方

FAX専用：011-301-3851

ホームページ <http://pmf-support.main.jp/>

(協奏バックナンバーもご覧いただけます)

(印刷協力 株式会社マルシン)